

<幼稚園教育>

一人一人が豊かに表現する力を育む援助の工夫

－身近な素材にかかわり活動することを通して－

玉城村立玉城幼稚園教諭 伊集 恒子

内容要約

一人一人が豊かに表現する力を育むために、身近な素材にかかわる中で、様々な表現活動を引き出すような環境構成と、その子なりの表現を認め、楽しく表現できる援助に努めてきた。その結果、豊かな素材環境から、イメージが膨らみ自分なりのイメージをもち試し、工夫して作るようになり様々な表現するようになった。また、一人一人の興味・関心を捉え、その子なりの表現をありのまま受け止め認めたことで、一人一人が豊かに表現する力が育っていった。

【キーワード】一人一人が豊かに その子なりの表現 楽しく表現する 素材との出会い

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究内容	2
1	一人一人が豊かに表現する力を育むために	2
2	表現する力を育む環境構成と援助の工夫	2
3	素材について	3
4	「表現」に関する年間指導計画	4
III	保育実践	5
1	ねらい	5
2	設定の理由について	5
IV	研究の考察	9
1	様々な表現活動を引き出す環境構成の工夫	9
2	その子なりの表現を認め、楽しく表現するための援助の工夫	10
V	研究の成果と今後の課題	10
1	研究の成果	10
2	今後の課題	10

＜幼稚園教育＞

一人一人が豊かに表現する力を育む援助の工夫

—身近な素材にかかわり活動することを通して—

玉城村立玉城幼稚園教諭 伊 集 恒 子

I テーマ設定の理由

幼稚園教育要領“表現”の領域では「幼児は、自己を表現することで友達や周囲の事物との関係が生まれることを楽しむ」と述べている。また、他の領域においても、「幼児は多くの友達や教師と触れ合う中で、自己の存在感や自分とは異なった様々な人への積極的な関心、共感や思いやりをもつようになる。こうした生活の中で自分の感情や意志を表現しつつ、他の人々と共に生活する楽しさや大切さを知り、伸び伸びと表現し満足感、充実感を味わうようになる」と述べられ、生きていくうえで表現力を育てることの大切さが示されている。

ところで、これまでも一人一人の幼児が豊かに表現する力が培われるよう実践してきた。幼児の興味関心、遊びの展開に応じて、空き箱、チラシなど身近でかかわりやすい様々な素材を環境として整えてきた。幼児はそれにかかわり、イメージを確かめるように素材を組み合わせ、遊びに必要なものを作る姿が見られた。しかし、遊びが継続しなかったり、困難に出会うと途中で投げ出したりする姿があった。表現という観点から反省すると、

- ① 幼児がイメージしたことを実現するために、タイミングよく援助できたか。
- ② 幼児が“自分なりの表現を楽しむ”過程を大切に受け止めたか。
- ③ 教師の考えを押し付けたりはしなかったか。

などが考えられる。

豊かな感性や自己を表現する意欲は、幼児期に自然や人々などの身近な環境とかかわる中で、自分の感情や体験を自分なりに表現する楽しさを味わうことによって育てられる。日常生活の中で、身近な素材は、手に触れやすく、様々に見立てたり、思うように作り替えたり、組み合わせたりすることができるので、幼児にとって自分なりに表現しやすい物である。それに触れて遊ぶことは豊かに表現する力を培うために大切な活動になると考える。

幼稚園生活において、幼児が「あー楽しかった！」と充実感を味わう中でこそ、豊かに表現する力が内面から培われると考える。幼児一人一人が豊かに表現する力を育むために、感動体験が得られる環境や、イメージを引き出すような環境を整えていくことが必要である。また、一人一人の特性に応じた援助に努め、幼児が自分らしく表現することを楽しんでいけるよう、その子なりの表現を受け止め、認めることが大切となる。

そこで、身近な素材にかかわる活動を通して、様々な表現を引き出す環境構成の工夫と、幼児一人一人が豊かに表現するための援助の在り方を探りたいと考え本テーマを設定した。

＜研究の視点＞

身近な素材にかかわる中で、一人一人が豊かに表現する力を育むために

1. 様々な表現活動を引き出す環境構成の工夫
2. その子なりの表現を認め、楽しく表現するための援助の工夫

Ⅱ 研究の内容

1 一人一人が豊かに表現する力を育むために

(1) 感性と表現

感性とは物事を感じ取る能力であり、感覚と感情という内なる働きを合わせて感性という。外からの刺激を感じ、その反応として、快、不快、喜び、悲しみ、怒りなどの感情が起こり、それが、原動力となって、話す、かく、作る、動くなどの方法（技術）で、具体化、形象化して表現するようになる。感覚には、視覚、聴覚、触覚、臭覚、味覚の五感がある。五感を働かせ常に周囲にあるものすべてに、気付き、自他がかかわり合う接点となり、自分のことと同じように、他者の存在にも気付くようになる。無関心なことには、感覚も感情も通過してしまうものである。その気になってしっかり見聞きしなければ、大切なこともうっかり見過ごしてしまう。感覚は訓練することで成長させることができる、人が人であるために感性が大切となる。

豊かな感性は、自然などの身近な環境と十分にかかわる中で美しいもの、優しいもの、心を動かす出来事などに会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われる。自然にしても身近なものにしても、幼児一人一人の特性に応じて、楽しさや面白さが引き出せるような環境であることが大切となる。豊かな環境から感動を得て、その感動を友達や教師と共有することによって一層感性は磨かれていく。そして、自分の気持ちや経験を自分なりに表現する充実感を味わうことで表現する意欲や力を身につけていく。

(2) 幼児と表現

表現というと、すぐに絵画や製作、音楽や劇というような、表現活動の指導や表現技術の指導などのことと思われがちである。領域「表現」でめざすものは、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」ことである。幼児は心動かされる多様な体験を通して、感じること、考えること、イメージを広げることなどの経験を重ね感性や表現する力を豊かにしていく。幼児の表現は素朴な形で行われことが多い。教師はそのような表現を受容し、表現しようとする意欲を受け止めて、幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにする。幼児は、自分の素朴な表現が他者から受け止められる体験の中で表現する喜びを感じ、表現への意欲を高めていく。さらに、自分の存在を実感し、充実感を得て、安定した気分で生活を楽しむことができるようになる。

(3) 一人一人が豊かに表現するとは

幼児一人一人の発達の特性《その幼児らしい見方、考え方、感じ方、かかわり方》を理解し、その特性やその幼児の課題に応じた指導をしていくことが求められる。表現の領域でも幼児らしい表現や素朴な表現を楽しむようにすることが述べられている。幼児は幼稚園生活において、心から楽しかったこと、面白かったことを何らかの方法で表現していくものである。教師はこのような素朴な表現や、その子なりの表現を、ありのままに受け止め認めることが大切である。その表現する過程で、感動を伝え合い、表現する楽しさを味わい、工夫し試したり、困難を乗り越えたりする中で内面に育つものがあり、一人一人が豊になる要素がある。そこで一人一人が豊かに表現するために、幼児一人一人のはずむ心を丁寧に受け止め、表現の楽しさを共感する友達や教師の存在が大切となる。その雰囲気の中で幼児は安心して自分を表現することができるようになる。幼児期にこのような体験を積み重ねていくことで、一人一人が自分らしさを発揮し、豊かに表現する力を育み、「生きる力」の基礎を培うことにつながる。

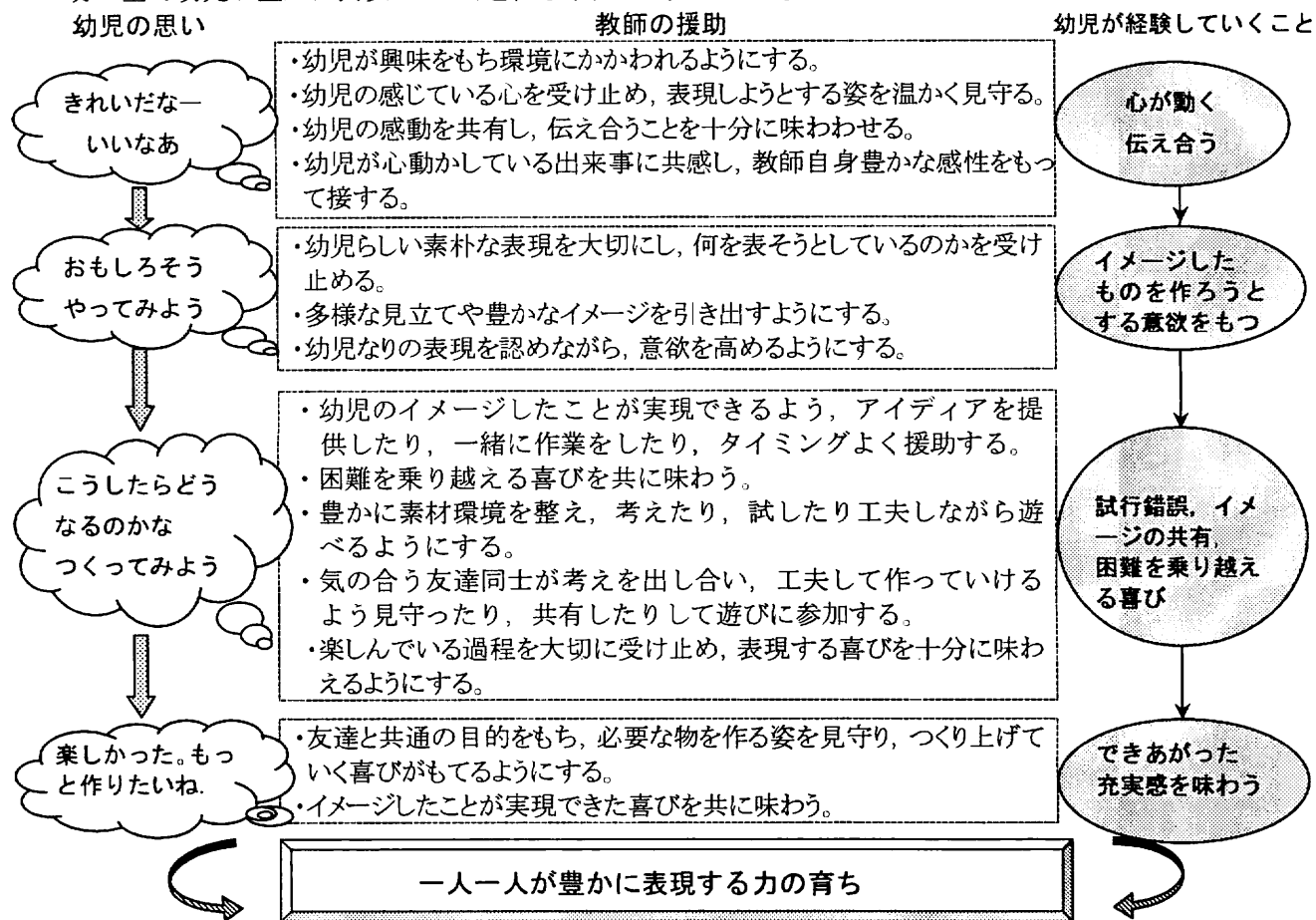
2 表現する力を育む環境構成と援助の工夫

(1) 身近な素材を生した環境構成の工夫

環境の構成は、幼児の姿から発達を見通し、具体的なねらいや内容に基づいて構成されなければならない。幼児が自らその環境にかかわることにより様々な活動を展開しつつ必要な体験が得られるようにする。そのための環境構成として、①見通しをもった計画的な環境の構成。②必要な素材や用具の準備。③様々にイメージを広げ活動できる環境等の工夫をしていく。幼児が生活する姿や発想を大切に、常にその環境が適切なものとなるようにすることが大切である。表現する力を高めるためには、豊富な素材環境を準備することが大切となる。素材にかかわる多様な体験は、表現の幅を広げ、表現する意欲や想像力を育てる上で重要である。さらに人的な環境としての教師の援助の基で、一人一人が豊かに表現する力が育まれていくものと考え。

(2) 豊かに表現していく過程と援助

幼児の思いや、興味・関心等の内面を理解し、発達を促すような援助をしていくことが大切となる。教師の援助の基で幼児が豊かに表現していく過程を下記のように示した。



3 素材について

(1) 幼児にとっての素材とは

幼児にとって素材は、幼児が手を加えたり、変化させたりできるものを指している。幼稚園でよく用いられる身近な素材としては、砂や石、土や水などの自然物はもちろんのこと、空き箱や空き容器、紙や粘土、木片や木の実、廃材など多種多様である。幼児が遊びの中で多く取り入れられているのは、遊具として作られているものよりも、むしろこうした様々な素材である。

身の回りに豊富にあるこれらの素材は、幼児が気軽に触れることができるものであると同時に、様々な物に見立てたり思うように作り替えたりできるなど、幼児の遊びにとって好都合な条件を備えている。幼児は身近な素材に触れながら、その感触を楽しんだり、特性に気付いたり、工夫したり、想像をめぐらしたりするなど、発達を促すために必要な様々な経験を積み重ねていく。

(2) 幼児の発達と素材のかかわり

入園当初や年齢の低い時期	素材への興味から素材に触れたり、並べたり、積んだり、こねたりして楽しむ姿がある。そのような活動を通して様々な素材に親しみ、それぞれの素材がもつ特性に体験的に気付いていく。
ある程度素材に親しんだ後の時期	素材をある物に見立てたり、意味付けしたりして活動の中に取り入れようとしていく。
友達との活動が盛んになる時期	自分なりに素材をある物に見立てて作るだけでなく、友達の作るものをまねてみたり、友達と同じようなイメージのもてる素材を利用したりして遊びを進めるようになる。
友達と目的をもって活動する時期	自分達の作りたい物に合わせて素材を選んだり、いくつかの素材を組み合わせたり、素材を様々な変化させたりして、友達と一緒に創意工夫するようになる。

4 「表現」に関する年間指導計画

		発達の過程	発達に必要な経験	素材や環境の工夫	教師の援助
四 歳 児	I期 4～5月	新しい生活のはじまり 教師や友達に親しみをもち、好きな遊びを見つけ安定する時期	・様々な音や色、形、手触り、などに気付いたり、楽しんだりする。 ・いろいろな素材に触れ、かいたりつくったりする。	・感動体験が味わえるような環境を整える。 ・チラシや新聞紙、空き箱等を自由に取って遊べるように、準備して置く。 ・砂場で使うトイや土、水遊びに使う用具等の準備をする。	・幼児の気付きや小さな発見を受け止め共感する。 ・幼児が何を感じ、表現しようとする姿を温かく見守る。 ・表現のひとつひとつを大事にし、幼児と一緒にかわり楽しむようにする。
	II期 6～7月	気の合う友達との遊び 気の合う友達ができ、いろいろな遊びを発見する時期	・砂や水、土の感触を味わいながら遊ぶ。 ・感動したことを伝え合う楽しさを味わう。		
	III期 9～12月	自分なりの力を発揮・挑戦 気の合う友達とのかかわりを持ちながら自分の力を出して遊ぶ時期	・心動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。 ・友達や教師と一緒に曲に合わせ、歌ったり、踊ったりすることを楽しむ。	・一学期に楽しんだ遊びができるように、素材や用具等を整える。 ・歌ったり、踊ったりができるように、カセットや楽器、小道具等を用意する。	・一人一人の幼児と接し、教師自身豊かな発想をもって接する。 ・温かい人間関係のなかで表現意欲を受け止める。 ・幼児と一緒に歌や踊りを楽しむ。
	IV期 1～3月	進級する喜び 気の合う友達と遊びを深めながら年長組になる期待をもつ時期	・感じたこと、考えたことなどをいろいろな方法で自由に表現する。 ・いろいろな素材を使い、工夫してつくる。	・いろいろな素材環境を用意する。 (劇遊びや遊びに使う物がつくれるように) (一人一人のイメージが膨らむように)	・一人一人が伸び伸びと表現している姿を認める。 その事を学級で話題にし、友達にも伝え存在感や満足感が味わえるようにする。
五 歳 児	I期 4～5月	新しい仲間とのくらし 幼稚園に期待を寄せ知っている友達や教師とのかかわりで安定する時期	・いろいろな素材に触れ、かいたりつくったりする。 ・感動したことを伝え合う楽しさを味わう。 ・心動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。	・感動体験が、味わえるような環境を整える。 ・遊びに必要な素材や用具を幼児と一緒に考えたり、準備したりする。 ・砂、土、水遊びが楽しめるよう、用具や場所の環境を構成する。	・感性や表現力を育てるために、幼児達の感動や発見を受け止め共感する。 ・友達との遊びが継続していけるよう、幼児の様子をみながら、時間や片付けを工夫し翌日の活動につなげる。
	II期 6～7月	友達との遊びが広がる 気の合う友達ができ、友達に関心を広げていく時期	・砂や水、土その他自然物の感触を味わう。 ・いろいろな素材の特性を生かし、工夫して作り遊ぶ。	・絵の具遊び、スタンプ遊び、木の葉の型押しができるような環境を構成する。	・水に触れ親しませ、開放感を味わわせる。 ・自然物の素材に触れさせながら、いろいろな遊びを楽しませる。
	III期 9～10月	一人一人の力を発揮して 自己を発揮しながら学級の仲間意識が芽生える時期	・音楽に合わせて、歌を歌ったり、踊ったりして楽しさを味わう。 ・イメージした物を工夫して作り、作った物で遊ぶ。	・歌ったり、踊ったりできるようにカセットやテープを用意する。 ・運動会に使う小道具やその他の物がすぐに作れるような、環境を構成する。	・自由に歌を歌ったり、踊ったりして遊ぶ心地よさを十分に味わわせる。 ・運動会に使う必要な小道具を、自ら作るように促す。
	IV期 11～12月	みんなの力を合わせて イメージを豊かにし、自分達で遊びを創り出し深めていく時期	・友達と考えを出し合い工夫して作り、表現する楽しさを味わう。 ・イメージを動きや言葉で表現したり、演じて遊んだりする。	・表現を楽しむ素材や用具、機器等の準備をする。 ・パネルシアターやペープサート、人形劇の台、TP機器 ・生活発表会に使う素材（不織布）等を揃える。	・ペープサート作り等で、友達同士のイメージがつながるよう仲立ちをしたり、十分な時間と場を確保したりする。 ・工夫し試している姿を認め、意欲をもたせる。
	V期 1～3月	充実した園生活 友達と一緒に共通の目的をもって園生活を楽しみ充実していく時期	・思ったこと、感じたことをいろいろな方法で表現することを楽しむ。 ・みんなの前でのびのびと表現することを楽しむ。	・生活発表会を意識して、表現活動がすぐに取り組めるような環境を幼児と一緒に整える。	・劇遊び等に必要な物を作る姿を見守り、できあがった喜びを共感する。 ・伸び伸びと人前で表現できるようにし、程よい緊張感を味わわせ、自信を持たせるようにする。

Ⅲ 保育実践

1 ねらい 「いろいろな素材を使い自分なりの表現を楽しむ」

2 設定の理由について

(1) 教材観（省略） (2) 幼児観（省略）

(3) 指導観

一人一人の表現活動の中で、楽しんでいる過程を受け止め認めたり、幼児がイメージしたことを実現していけるよう、タイミングよく援助したりしていかなければならない。そのためには幼児一人一人の興味や関心を捉え、寄り添い丁寧に援助していく必要がある。豊かな素材環境を整えながら、幼児がその子なりの表現を楽しんでいけるようにしていきたい。

そこで、下記のように幼児の姿から、環境の構成や援助の工夫を図っていく。

① 表現活動を捉え環境構成や援助の工夫を図る

♡幼児の活動・姿 ♣環境の構成 ☆教師の援助

♡パトカーを作り遊ぶ（N男，G男）

幼「先生、パトロールに行ってきます」 教師「ああ大変、悪者に出会ったらどうする？」 幼「そうだ拳銃を作ろう」

♣あき箱、牛乳パック、段ボールその他の廃品、イメージを湧かせるような素材を用意する。

☆イメージを湧かせるような会話を交わしたり、一緒に遊んだりする。

♡レストランごっこ（G子，A子，C子，H子）

- ・折り紙で芋やぶどう、ジュース等を作りレストランのご馳走作りをしている。
- ・「お客さんはチャイム（メロディベル）を鳴らして下さい」と知らせたり、折り紙で花や花瓶を作り飾ったりして、一人一人がレストランの雰囲気作りをしている。

♣レストランの雰囲気を出すために、ランチクロスやカーテンに使えるような布を用意して置く。

☆教師は、お客さんになり「何を注文しようかな」「メニューを見せて下さい」等の遊びをしながら、よりレストランの雰囲気が作れるようにする。

♡ロボット作り（E男，B男，I男，L男，M男，B子）

- ・「ぐらぐらするなあ。つかまえていてよ」大きな段ボールのロボット作りは友達に手伝ってもらっている。困難な場面だが何度も繰り返し立たせたり、倒したり慎重にキャスターを取り付けている。
- ・段ボールで大きなロボットを作り、キャスターを付け動かして遊んでいる。

♣試したり、工夫したりするのに必要な素材を用意し、幼児がイメージしたことが実現していけるようにする。

♣大型の素材を使い、取り組む子が増えてきたので、ゆったりとした場や空間を確保する。

☆上手く立たないロボットを立たせるために、試行錯誤している姿を見守り、タイミングよく手伝ったり、アイディアを出したりする。

♡メンコ作り→お家作り（H男，F男，K男，D男，E子，A男，J男）

- ・メンコを牛乳パックや段ボールなどで幅の広い物にしたり、厚みのある物にしたりして作っている。メンコの勝負に勝つために工夫して作っている。
- ・メンコ遊びの仲間の一人がお家作りを提案したことから、遊びはお家作りへと移っていった。牛乳パックを積み上げ壁にしたり、段ボールを広げ屋根にしたり、段ボールの特性を生かし折り曲げて椅子を作ったりしている。カーテンを取り付けたりして家を作るという目的に向かって、7人が協力しながら遊んでいる。

♣7人がお家のイメージを共有化するために、新聞に載っている写真を提示する。

☆大きい家をイメージしているので、たくさんの牛乳パックや段ボール、カーテンに利用できる物を用意し、豊かに素材環境を整える。

☆子ども達の発想を認めたり、行き詰まっている時はアイディアを提供したりする。

☆遊びに必要な数の牛乳パックや段ボールの数が揃えられるよう、自分達で用意することができるようにし意欲につなげる。

② 一人一人への援助（一人一人の表現している様子を捉える）抜粋

園児名	幼児の興味・関心 表現に関する場面を捉える	教師のかかわり	◇発達に必要な経験 ♥見通しをもつ
A男	・友達とメンコ遊びをしている。その仲間とお家を作ることになった。お家作りに使った段ボールの切れ端を使い電車に見立てている。 ・身近な自然との触れ合いから、おたまじゃくしのパネルシアターを作り楽しんでいる。	・仲間に誘われお家を作ることになったが、違う遊びをしている。しばらく様子を見守り、その子の本当の興味を探っていきたい。 ・A男の表現を受け止め、意欲をもたせるような言葉かけをしたり一緒に遊んだりする。	◇イメージをもち表現する楽しさを味わう。 ♥生活発表会でのびのびとパネルシアターを発表する。
E男	・段ボールでロボットを作っている。しかし足のバランスが良くない、工夫してペットボトルや牛乳パックを使い完成させていた。友達のロボットと戦いをして楽しんでいる。	・「今度のロボットはすごい。しっかり立つだね」と認め自信をもたせるようにする。イメージしたものを作るために、どの素材が適しているか気付かせたり、試し工夫したりして作れるようにさせる。	◇いろいろな素材を使い、工夫して作る楽しさを味わう。 ♥困難を乗り越える喜びを味わう。
F男	・素材にかかわり作って遊ぶことが、苦手である。メンコ遊びが好きでその仲間と一緒にお家作りを始めた。段ボールの切れ端を使い電車に見立てて遊んでいる。	・お家を作る段階で段ボールの切れ端を使い、電車に見立てて遊んでいる。今、F男がその遊びに興味のあることを読みとり、電車ごっこ遊びを満足させる。	◇素材の特性を知り生かして遊ぶ。 ♥目的に向かい作っていく楽しさを味わう。
L男	・イメージした物(ロボット)などを短時間で作り、他の遊びへと移ってしまう。しかし、しばらくすると、頭部に使う適当な箱を探し取り付けている。剣を持たせたり、お腹の部分を取り付けたりして工夫が見られる。	・作っている途中で、イメージが途絶えるのはなぜなのかL男に寄り添って内面を理解する。友達や教師のアイデアを話したり、じっくり取り組める雰囲気や場、時間を作ったりする。	◇友達や教師のアイデアを聞き工夫して作る。 ♥作った物を大事にして、作った物で遊ぶ楽しさを味わう。
D子	・前日から作っていたロボットを改造している。口や舌も着けるんだと張り切っている。また、仲良しのF子と絵本をみながら、身近にあるいろいろな素材を使い、立体的な花や階段、家を作っている。	・かわいいロボットができ上がったことや工夫したところなどを認める。また、細かい立体的な物を作っている。技術的にすばらしいものがある、そのことを伝えながら誉め意欲につなげる。	◇イメージした物を工夫して作る楽しさを味わう。 ♥作った物で遊ぶ中で、言葉で表現する楽しさを味わう。
E子	・友達の発想から、お家作りに取り組んだが、E子のイメージでどんどん進められている。 ・友達の絵を集めて紙芝居を作り、友達に見せたり、読んであげたりしている。	・自分の思いのままに進めるのではなく、友達の考えも取り入れて遊べるよう援助する。 ・紙芝居のお話作りでは、自由な発想で表現している。そのことを認め誉めたり、友達の前で読ませたりして自信をもたせる。	◇友達と同じ目的に向かい作っていく楽しさを味わう。 ♥生活発表会でのびのびと紙芝居を発表する。

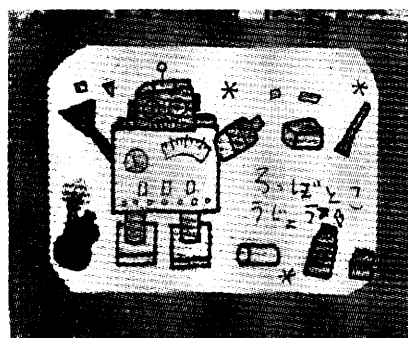
3 保育計画

月/日	ねらい	幼児の活動	❖環境の構成 ☆教師の援助
12/6 (月) ～ 12/10(金)	・身近な素材に触れイメージしたものを作って遊ぶ。	・おばけ屋敷作り ・ロボット作り ・自動車作り ・メンコ作り ・ポスト作り ・ツリー作り	☆その子なりの表現を認め意欲をもたせる。 ❖いろいろな素材を、目に付くところに置き、イメージが湧くようにする。 ☆興味を示さない子には、友達が楽しく遊んでいる様子に気付かせたり、教師も一緒に遊んだりして興味をもたせるようにする。 ❖作って遊べる絵本を、目につくところに置く。また、その絵本を全体場で見せイメージをもたせる。
12/13(月) ～ 12/17(金)	・自分なりに工夫して作り表現することを楽しむ ・作った物を使い、遊びを楽しむ。	・メンコ作り ・ロボット作り ・人形作り ・とんがり帽子作り ・お家作り(椅子、ゴミ箱) ・ポスト作り ・紙芝居作り ・レストランごっこ	❖工夫し試して遊ぶのに必要な素材を配置したり、子どもと一緒に準備をしたりする。 ☆工夫している姿を認め、励まし思いの実現まで頑張れるようにする。 ☆幼児が実現したいことを読み取り、工夫している中で、技術面で無理な時は手伝ってあげる。 ☆イメージした物を完成させるために、必要な素材や適当な材料を子ども達自ら用意するようにさせ、教師も素材を用意して置く。完成の喜びを味わわせたい。
検証保育 12/20(月) ～ 12/22(水)	・友達と考えを出し合い工夫して作り、表現する楽しさを味わう。	・パネルシアター作り ○作った物で遊んだり飾ったりする	☆考えを出し合う場面で、うまく伝わらない時は、教師が仲立ちをして伝わるようにする。 ❖遊びの様子をみて場所を確保したり、時間を延長したりして、できるだけ満足できるようにする
今後 表現活動 ↓ 生活発表会	・イメージを豊かにし様々な表現を楽しむ。	・紙芝居をする ・パネルシアター ・楽器遊び ・踊り(エイサー)	☆一人一人の工夫を認め、作った物で生活発表会をしようとする姿を大切に、見守ったり一緒に創りあげたりして満足感をもたせる。 ☆伸び伸びと人前で表現できるようにし、自信をもたせるようにする。

4 保育の展開

(1) 環境の構成

素材にかかわりじっくりと表現できる場の設定、イメージを共有したり、イメージを引き出したりする環境を用意する。また、用具や素材などを整え自己表現が楽しめるよう工夫する。



【じっくり表現できる場の設定】



【用具や素材などを整える】

(2) 本日の指導案

幼児の姿	・段ボールや空き箱を使い、ロボットやメンコ、自動車を作っている。 ・友達が作っているのを見て作りたくなり、同じ遊びに興味のある子同士と一緒に遊び出す姿がある。大きなロボットを作る時支え合ったり、教え合ったりする場面が見られる。 ・気の合う友達同士がひとつの目的をもち、お家を作り始めた。三角屋根にしたいとアイディアを出す子がいて、段ボールや牛乳パックで屋根や壁を作っている。 ・素材の形の面白さからイメージして、いろいろな物(人形、クワガタ、芋虫、携帯電話やゲーム)を作っている。	
ねらい	・イメージしたものを自分なりに工夫して作る。 ・友達と考えを出し合い工夫して作り、表現する楽しさを味わう。	内容 ・自分なりにイメージしたものを作る。 ・友達と考えを出し合い、工夫して作る。 ・作った物を遊びに使ったり、飾ったりする。
時間	予想される幼児の活動	✧環境の構成 ☆教師の援助
8:10 8:30 9:15 登園 あいさつをする。 お集まり (予想される遊び) ○車、動物作り ○メンコ作り ○レストランごっこ (ジュース、ラーメン) ○人形作り ○絵本、紙芝居作り ○パネルシアター作り ○お家作り  ○ロボット作り  10:00 10:15 10:30 ○作ったもので遊ぶ ○作ったものを飾る 片付け 話し合いをする おやつ	10:00 10:15 10:30 ○作ったもので遊ぶ ○作ったものを飾る 片付け 話し合いをする おやつ	☆一人一人にあいさつを交わし、健康状態を把握する。 ☆話しを交わしながら、先週の遊びを思いださせ、今日の遊びへつなぎをもたせる。 ✧身近な素材からイメージが湧くようにいろいろな素材を用意して置く。 (段ボール、空き箱、牛乳パック、スチール皿、その他の用意) 道具や用具の準備(のこぎり、ボンド、のり、マジック、ガムテープ) ✧絵本などからも、イメージが湧くように、作って遊ぶ絵本を揃え目に付く所に置いておく。 ☆一人一人が表現している姿を受け止め、その子なりの表現を認めながら意欲をもたせるようにする。 ☆イメージしたことが実現できるよう、アイディアを提供したり一緒に作業をしたりする。 ☆子ども自身がまだ自分の感じや思いなどを明確につかめてない場合には、その子の気持ちに沿いながら、思いが確かになるように援助していく。 ✧イメージを共有し遊びを継続していくために、子ども達と一緒に環境を整えていく。(ロボット工場、展示する場所、お家作りの場所) ☆気の合う友達同士が考えを出し合い、工夫して作っていけるよう見守ったり、共有して遊びに参加したりする。 ☆イメージした物を完成させるために、必要な素材、適当な材料を子ども達自ら用意するようにさせ、教師も素材を用意して置く。完成の喜びを味わせたい。 ☆子ども達がいろいろな物を作り工夫している時、技能的に無理な場合は教師が手伝い実現できるようにし、満足感をもたせる。 ✧遊びの様子をみて場所を確保したり、時間を延長したりして、できるだけ満足できるようにする。 ☆使った物を片付け、部屋をきれいにする。また、明日の遊びへつなげられるように、自分達の遊びの場を片付けたり、整えたりする。 ☆楽しかったことや、困ったことなど話していく中で、明日の意欲へつなげていく
評価	・自分なりのイメージをもち、工夫して作っていたか。 ・友達と考えを出し合い工夫しながら、表現する楽しさを味わい遊んでいたか。	

Ⅳ 研究の考察

1 様々な表現活動を引き出す環境構成の工夫

(1) 学級全体の様子から

幼児は身近な環境に働きかけ行動する。そこで一人一人の興味・関心を捉え、様々な表現活動を引き出すような環境の構成をしてきた。幼児は環境にかかわり、そこからいろいろな感じとり、イメージを膨らませ。身近にある素材に初めは目的もなく触っているだけだったが、そのうち大きさや、形、感触などからイメージが湧きイメージした物を作って楽しむことができるようになった。素材を豊富に用意したことで、イメージしたものにより近づけた物が作れるようになっていった。また、途中イメージが湧かずに行き詰まることもしばしば見られたが、その時は絵本を読んだり、製作に関する絵本を用意したりしたことで、イメージを引き出すことができた。

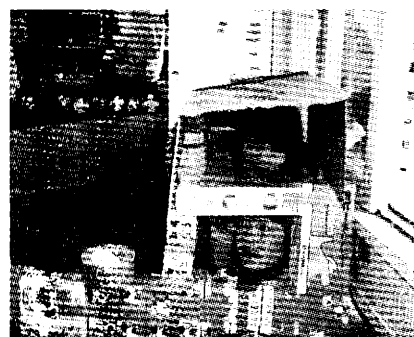
環境は教師だけが準備するのではなく、幼児と共に構成していくものである。戸外遊びが大好きな数名の子に、段ボールを用意したところお家をイメージしてお家を作るという目的をもち遊び出した。その活動の中で、素材に触れ段ボールの特性を生かし、曲げたり延ばしたりして椅子やテーブルを作り、よりお家らしくなっていった。友達とイメージを共有しながらお家を建てるのに適した場所や素材などを考えたり、家から素材をもって来たりしてお家作りを楽しむことができた。幼児が自分たちのイメージに合ったものを取り入れ、自分たちで考え、つくり出し、遊びを展開させていった。このように素材との出会いを豊かにし、イメージを引き出すような環境の工夫や、教師が幼児と共に環境を構成したことで、様々な表現する力が育ったと考える。



【三角屋根にしようね！】



【ここは、玄関だよ！】



【友達と工夫して作ったお家】

(2) F子の様子から

F子は、限られた素材を使っでの表現遊びから、自分のイメージした物に適した素材を集め、しだいに工夫して作るようになっていった。周囲の環境に積極的にかかわり、身近な素材を取り入れて様々な表現(友達といろいろな素材を使い、立体的な花、木、階段、公園)するようになった。豊かな素材環境はF子のイメージをさらに膨らませイメージの実現に向け工夫するようになった。教師は一生懸命に取り組んでいるF子の姿を認めたり、作った作品を友達に紹介したり、展示したりして表現する意欲をもたせるようにした。F子は表現意欲が高まり家から素材を持って来て自分のイメージした物を作り、友達と遊びを展開していた。

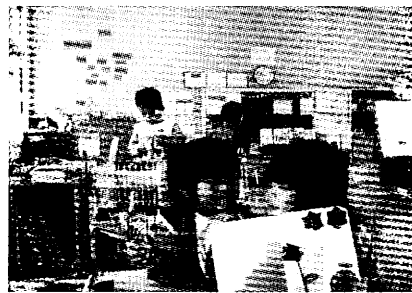


【F子の作った公園】

<環境構成の工夫によって、様々な表現活動が展開された例>



【立体的なお家作り】



【絵本作り】



【パネルシアターを作り遊ぶ】

2 その子なりの表現を認め、楽しく表現するための援助の工夫

(1) 学級全体の様子から

一人一人の表現は様ではない、そこで一人一人の表現する姿（興味・関心）を捉え、楽しく表現するための援助に努めてきた。幼児は身近な環境にかかわり感動したことを友達や教師に伝え合い、表現する姿があった。その素朴な表現や、その子なりの表現をありのままに受け止め、楽しんでいる様子を認めていった。その子なりの表現を受け止め、認めていったことで、さらに表現する意欲が高まっていった。例えば、ロボットをイメージして作っていく過程で、試行錯誤して作る姿を見守ったり、タイミングよく言葉をはかるなどの援助をしたりしていった。その結果、友達の考えを聞いたり、手助けをしてもらったりして完成していく達成感を味わうことができた。このような表現活動の中で、作った物で遊び、大事に取ってまた明日の遊びへと継続している姿から、満足感や充実感を味わい楽しく表現する力が育ったと考える。

さらに、2月の生活発表会でパネルシアターや紙芝居を伸び伸びと発表する幼児がいた。大勢の前で発表するまでの練習や当日の緊張感を経験し、自信につながったと思われる。

(2) G男の様子から

教師は一人一人に寄り添い幼児のつぶやきや行動から内面を理解し、援助に努めてきた。当初G男は、友達の遊びを眺めるだけで自ら行動しなかった。このように友達の遊びを眺めている姿（行動）から、作りたいという（内面）を理解し会話を交わしながらイメージを引き出したり、それに見合う素材と一緒に探したりしていった。教師の援助で自ら素材にかかわるようになって、自分がイメージしていたパトカーを作り出し、日々それにイメージを付加しながら工夫を凝らして作って楽しむようになった。また、「カッコいいパトカーができたね」と認めたり、友達に紹介したりすると、パトカーに興味をもっているN男が遊びに加わり、毎日のようにパトカーで楽しむようになった。友達や素材にかかわることが苦手だったG男は、教師や友達に認められたことで、安心感を抱き思い切り自己を表現し楽しむようになった。



【“パトカー” ってかいたよ】⇒⇒⇒【僕のパトカーカッコいいでしょう】

【ロボットに変身！】

IV 研究成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 幼児の身近にいろいろな素材を整え、表現活動を引き出す工夫を図ったことで、幼児は自分なりにイメージをもち、様々な表現活動を楽しむようになった。
- (2) 幼児に寄り添い興味・関心を読み取り、その子なりの表現を受け止め認めながら援助したことで、一人一人が豊かに表現する力が育っていった。

2 今後の課題

- (1) 感性や表現する力を育てるために、年間指導計画に基づき、意図的・計画的に環境構成の工夫を図っていききたい。
- (2) 幼児理解を深めるために、ティーム保育の充実を図り、一人一人の幼児が表現する力を育んでいくようにする。

<主な参考文献>

文部省
岸井勇雄・小林龍雄
小田 豊・神長美津子編

『幼稚園教育要領』
『表現Ⅰ 感性と表現』
『新たな幼稚園教育の展開』

フレーベル館	1999	年
チャイルド社	1990	年
東洋館出版社	2003	年